

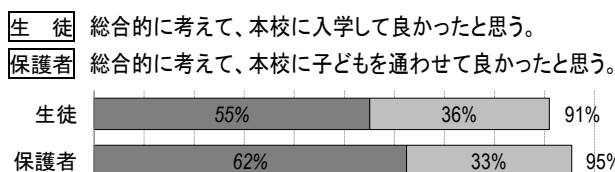
学校評価アンケート集計結果のご報告

令和6年4月
静岡学園中学校・高等学校

本校は、「時代が求め、地域や国際社会が期待する人材」を育成すべく、「孝友三心」を校是に掲げ、自主自律の精神、共生の精神、真理と生命を尊ぶ精神、進取の精神を教育理念に、より良い学校づくりを目指して改革を続けています。教育活動の改善を図り、その環境を整えるために重ねてきた様々な取り組みの成果を確かめ、併せて改善課題の的確な把握を図るべく、本年度も学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果に分析を加えて、「生徒のための改革」の進捗と今後の方向性をお伝えするために本書面を起こしました。ご高覧を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長 鳴嶋 吉彦

生徒、保護者に「本校に入学して／入学させて良かった」と思われることは、生徒を預かる学校が最低限満たすべき要件と考えます。以下の質問への肯定的な回答が占める割合は、生徒が91%（昨年は92%）、保護者が95%（同95%）でした。「どちらかと言えば」との但し書のない「そう思う」がより多くなるよう、教育活動のさらなる改善に取り組んで参ります。



グラフの見方（凡例と集計方法について）

凡例：■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。棒グラフの右端外側に添えた数値は肯定的な回答が占める割合（肯定率）です。なお、数値（百分率）は各々小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。

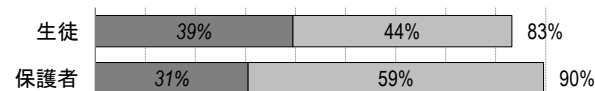
学校への満足度への他の評価項目からの寄与度を生徒と保護者のそれぞれについて、改めてデータで確認をしたところ、生徒の場合、「進路実現への十分なサポート」「困りごとへ先生の親身な対応」「部活動環境と顧問指導の充実」「将来に対する目標や夢を見つけられること」といったところに大きな比重が置かれていました。これらの実現には、啐啄（そったく）宣言でお約束している「生徒が向上したいと思ったときを逃さないサポート」の着実な実行が欠かせません。教育活動全般で一層の充実を図ることは当然ですが、これらの項目には最大限の力を入れ、改善の余地を残さぬように努めます。保護者の期待の多くは「将来を拓く学力の獲得」「進路実現へのサポート」「SGTや緑風塾などの特色ある教育活動」に向けら

れており、その期待にしっかり応える所存です。

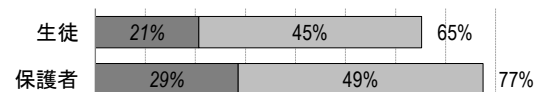
【授業・学習指導】

学校の教育活動の中核である学習について幾つかの観点で、生徒と保護者の双方に評価を求めました。新課程が求める学びの実現を目指して、教員は教材研究に力を入れるとともに、校内外の優れた実践に学んでいます。「進路希望を叶える／将来を拓く力が身につく授業」については、生徒の評価が小幅ながら低下しました。より良い学びを求める声に応えられるよう改めて研鑽を重ねます。「日々の勉強への取り組み」はわずかに上昇しましたが、十分とは言えない水準です。意欲的に取り組める教材の開発を進めつつ、学習習慣の形成を図る指導に注力します。

生徒 授業にしっかり取り組めば、進路希望を叶えるだけ力がつく。
保護者 学校の授業を通し、子どもは将来を拓く力を身につけられる。



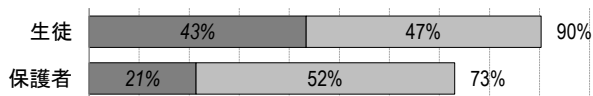
生徒 私は、日々の勉強に見通しを立てしっかりと取り組んでいる。
保護者 子どもは、学習習慣を身につけ、日々勉強に取り組んでいる。



生徒一人ひとりの課題とニーズに応えるサポートは、生徒の「啐」に応じる教職員の「啄」です。生徒の9割が肯定的に評価していますが、保護者の評価を見ると、改善の余地は小さくないと考えられます。

生徒 学校生活(学業、進路を含む)の悩みに、先生方は親身に届けてくれる。

保護者 勉強のわからないことや進路の悩みは、学校で解決できているようだ。

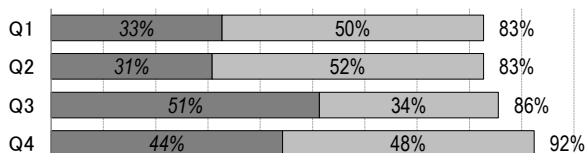


【進路指導、キャリア教育】

本校の進路指導が目指すところは、「多様な体験を通して自らと向き合い、高い志と進路実現の実力を身につけること」です。SGTを始めとする6つの特別プログラムも目指すところは同じです。「夢の発見」「それを実現するのにふさわしい進路の選択」「進路希望の実現」の各フェイズにおける指導法の開発や組織的な指導態勢作りを引き続き進めていきます。

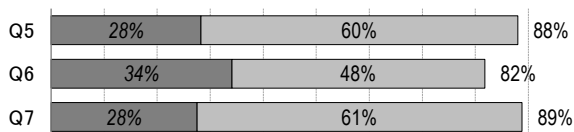
生徒には以下の質問で現状への評価を求めました。各項目とも、回答分布に昨年度との大きな違いはありません。Q4は肯定率が9割以上を維持しましたが、他の3項目には改善の余地がまだ残ります。学年によって如上の3フェイズの中での位置が異なります。それぞれに応じた適切な進路学習の機会は、今後も整備を進め、生徒が内省を重ねて未来の自分を発見する努力に、啄（サポート）で応えて参ります。

- Q1 講演、ガイダンス、面談などは、進路選択に参考になる。
- Q2 進路について考えるのに必要な情報は、十分に手に入る。
- Q3 私は、自分の将来に目標や夢を持っている／持てると思う。
- Q4 進路希望の実現に、学校はしっかりサポートしてくれる。



保護者には、以下の質問で評価をいただきました。Q7は昨年度をわずかに上回る評価ですが、Q5とQ6に変化はありません。進路指導の方針や内容は常に更新と改善を図っていますが、保護者に対する丁寧な説明と周知にも各学年でこれまで以上に努めます。

- Q5 進路指導の方針はわかりやすく、指導内容にも納得できる。
- Q6 子どもは、自分の将来に目標や夢を持つようになった／なる。
- Q7 子どもの進路希望の実現に、学校はサポートの態勢を整えている。



進路指導やキャリア教育の現状に対する教職員の問題意識も、今回のアンケートを機に改めて共有が進みました。改善に向けた個人／組織での取り組み

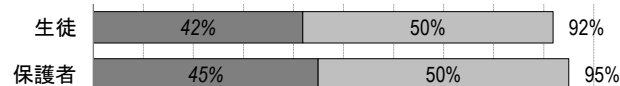
を加速させ、継続的な改善を重ねて行きたいと思えます。特に、進路指導の体系化と組織協働についてはさらなる一歩を踏み出すべく、計画作りを進めます。

【生徒指導、自律性の涵養】

本校が掲げる教育理念の先頭に置かれているのが「自主、自律の精神」であり、生徒指導における優先順位でも当然先頭に置かれます。与えられたルールや規則を守るだけでなく、取るべき行動を生徒自身が考えて、正しい選択をできるよう、指導を進めます。いずれも回答分布は昨年度とほぼ同じですが、やや低位の「災害時などの対応」や「指導方針の周知と説明」には、これまで以上に力を入れ、改善を図ります。

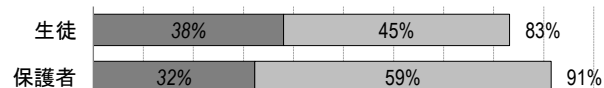
生徒 私は、学校の決まりや集団生活のルールやマナーを自分から進んで守っている。

保護者 子どもは、決まり事や約束、社会のマナーを自ら進んで守っている。



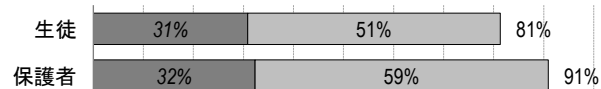
生徒 私は、地震、火災、事故などが起きたとき、落ち着いて適切に行動できると思う。

保護者 地震、火災、事故などが起きたときの学校の対応は明確で安心できる。



生徒 学校生活上の約束事はわかりやすく示されていて、指導には十分納得できる。

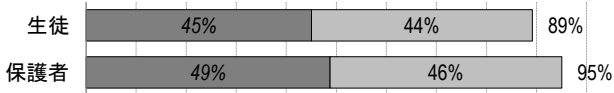
保護者 生徒指導の方針はわかりやすく説明されており、内容も納得がいくものだ。



周囲にいる他の生徒の言動から受ける刺激は生徒の成長（行動や考え方の変容）を促します。自らを相対的に振り返る材料でもあり、自律性の涵養にも不可欠です。以下の質問に、まだ1割の生徒が肯定的な答えを選べていません。他の評価項目の改善の起点となることもデータ解析でわかってきました。これを機に、授業や行事、部活動等における「生徒間の相互啓発がより良く働く場」の整備を加速します。

生徒 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢に刺激を受けて、自分も頑張れる。

保護者 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢は、子どもにとって良い刺激になっている。



生徒の成長に必要な周囲からのポジティブな刺激を歪めかねない「いじめ」や「人間関係のトラブル」の根絶には学校を挙げて取り組んでいます。以下の質問の肯定率は9割以上を維持しました。質問文の前半の実現に加え、楽しく前向きに取り組める活動の場の創出に引き続き力を入れたいと思います。

生徒 私は、いじめや人間関係のトラブルなく、楽しく毎日の学校生活を送れている。

保護者 子どもは、いじめや人間関係のトラブルなく、学校生活を楽しんでいる。

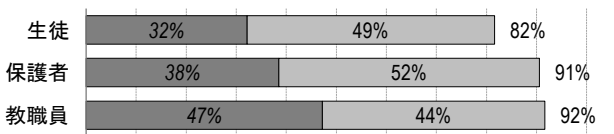


実り多き学校生活を送る土台は、言うまでもなく健康な生活、とりわけ規則正しい睡眠と食事です。「睡眠と食事を規則正しくとり、健康的に毎日を過ごしている」に肯定的に答えた保護者は4年前の84%から減少傾向にあり、今回は81%です。教室内外での観察と指導を通して、生徒の意識への働き掛けを続けます。また、生徒に「自律」を求めている以上、教職員が服装や言動といった「基本」から模範を示す必要があります。生徒の評価はやや改善しましたが、改善の余地はまだ残ります。教職員にも問題意識があり、改めてその共有を図っていこうと思います。

生徒 先生は服装や言動で社会人としての模範を示している。

保護者 教員の服装・動は、生徒に社会人としての模範になっている。

教職員 私は、社会人としてのマナーを意識して職務に当たっている。



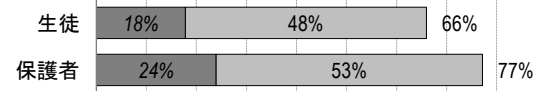
【建学の精神、教育理念への理解】

建学の精神や教育理念の下で、教職員がまとまることは「私学の存在意義」に関わる大切なことですが、教職員の独善にならぬよう、生徒や保護者の理解と共感を得た上で、教育活動を進めていきます。日々の学校生活の中で、生徒とともに「孝友三心・啐啄宣言」や「教育理念の4つの精神」を考える機会を持つよ

うにしているものの、まだ十分でないことが生徒の評価に表れています。改めて建学の精神や教育理念を、生徒の日々の生活に照らして具体的に示し、個々の指導に込めた意図がどこにあるのか、さらに深く理解してもらえるように努めていきます。

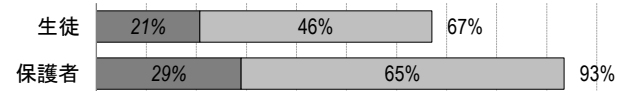
生徒 「孝友三心」「啐啄宣言」を意識して学校生活を送っている。

保護者 「孝友三心」や「啐啄(そったく)宣言」の内容を知っている。



生徒 私は、教育理念の4つの「精神」をきちんと理解している。

保護者 学校は、建学の精神や教育理念に沿った教育を行っている。

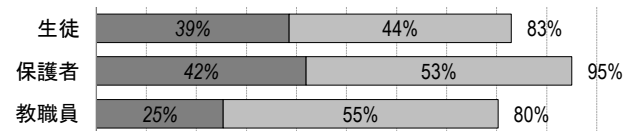


教職員に尋ねた「建学の精神や教育理念の下でのまとめ」「生徒の前で孝友三心に言及する機会」では、前回のアンケートで問題意識を改めて共有できたにも拘わらず、未だ不十分とする回答が多く、足並みの揃った改善行動にならなかったと反省します。「現状に満足することなく、生徒のための改革に取り組んでいる」との教員が多数ですが、新たな挑戦も、建学の精神や教育理念という「拠り所」を見失わずに行ってこそ、学校の伝統が築けるものと考えます。

生徒 先輩方の活躍や校内の文化に、学校の歴史と伝統を感じる。

保護者 本校には歴史や伝統が備わっている／備わってきた。

教職員 学校には歴史と伝統が備わってきたと感じる。



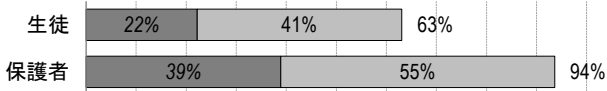
【特別プログラム】

本校では、「だけじゃない力」の獲得を図るべく、様々な特別プログラム(SGT、日本の伝統文化継承プログラム、ボランティア活動、インターナショナルプログラム、緑風塾、地域共生活動)を整えて、その充実を図ってきました。それぞれに固有の目的がありますが、学びを複合的に体験してもらうことで、多角的な能力・資質が育まれ、社会をより良く生きる力とチャレンジ精神が生徒一人ひとりのものになると考えます。各々の目的の達成を確実なものとするべく、これからも可能な限りの工夫を重ねて参ります。

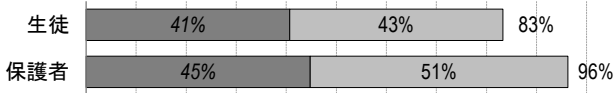
生徒 SGTや緑風塾の活動には、目的意識をもって積極的に取り

組んでいる。

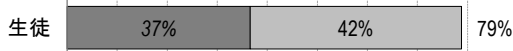
保護者 SGTや緑風塾など、本校の特色ある教育には大きな期待を持っている。



生徒 ボランティアや地域共生活動で様々な気づきや学びがある。
保護者 ボランティアや地域共生活動は、社会の一員の自覚を育む。



生徒 伝統文化継承や国際交流には、意欲をもって取り組んだ／取り組みたい。



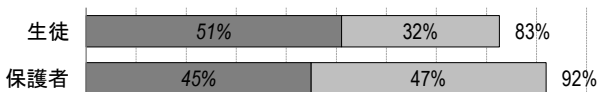
各プログラムでの目標達成へのコミットメントや指導手法の確立を目指す研鑽などは、実際の指導を担当する教員だけでなく、全教職員の意識を高め、各々の活動や指導を互いによく知り、シナジーを働かせてこそ、トータルでの成果量、費用対効果が高まるはずです。研修の充実や情報共有も加速させます。

【部活動、学校行事、生徒会活動】

部活動もまた、「あきらめることなく自分の可能性を追求する」「自主性と自律心をもって静岡学園の生徒としてふさわしい行動をする」「友情と、先輩後輩の絆を深め、先生方から人間としてのあり方を学ぶ」といった姿勢を獲得するための重要な教育機会であり、その位置付けにはこれまでと何ら変わりはありません。評価結果に顕著な改善は見られませんでした。肯定的な回答をさらに増やすべく、活動の環境や指導体制を整えて、生徒一人ひとりが「努力と活躍の場」を持てるよう取り組みます。また、学校行事も含め、課外活動の広報にはまだ不足があると認識しました。活動に取り組んだ成果（成長）も、生徒の声などを通じて、しっかり伝えていきたいと思えます。

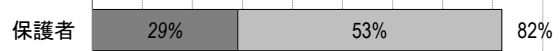
生徒 私の所属する部活動は、環境（練習場所、顧問の指導など）が整っている。

保護者 学校は、部活動の練習環境や指導体制を整え、生徒の頑張りを応援している。



保護者 行事や部活動での生徒の頑張りが活躍は、通信やHPで十

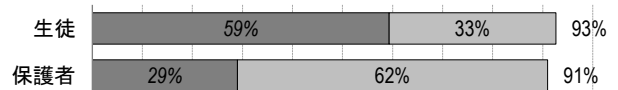
分に伝わってくる。



静学祭や体育祭などの学校行事への評価はわずかに改善しました。コロナ禍を抜け出しつつある中で教育的意図に沿った運用が容易になってきたことの影響もあるかと思えます。自分の成長や周囲との絆の深まりを実感する生徒も増えました。保護者の評価では「どちらかと言えば」の但し書きつきが大半で、内容や運営にはさらにブラッシュアップが必要です。今後も、安心・安全を最優先に実施に当たります。

生徒 静学祭や体育祭では、自分の成長や周囲との絆の深まりを実感できる。

保護者 静学祭や体育祭の内容・運営には、教育的な意図がしっかり感じられる。



課外活動での「自主性・主体性の涵養」に関する教職員の評価はやや改善しましたが、解決すべき課題を認識する声も多く、まずは、問題点を洗い出します。

教職員 生徒会活動や部活動での指導を通じて、生徒の自主性・主体性が育てられている。



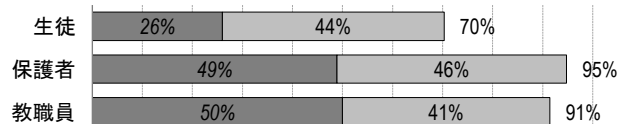
* * * * *

学校が学びのコミュニティとしてまとまるには、母校／職場に対し、一人ひとりが誇りを持てることが肝要です。校歌を歌う場面での生徒の心情はやや振るいませんが、他二者の評価は少し改善しました。

生徒 校歌を歌うとき、静岡学園の生徒であることに誇りを感じる。

保護者 子どもは、静岡学園の生徒であることに誇りを感じている。

教職員 私は、本校で教育活動に当たれることに誇りを感じている。



学校評価アンケートへのご協力に、改めて御礼を申し上げます。お寄せ寄いただいた回答は学校への要望そのものです。結果の一つひとつに真摯に向き合い、より良い学校作りに役立てて参る所存です。

保護者 学校や先生方は、生徒・保護者の意見や要望に対し真摯に

向きあってくれる。



本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL 054-200-0191 FAX 054-200-0195

教務部研修課長 堀川 雅史